

他科の先生に  
知って欲しい

## 豆知識・・・耳鼻咽喉科編⑫

### 伝音難聴

倉敷中央病院 耳鼻咽喉科主任部長 佐藤進一

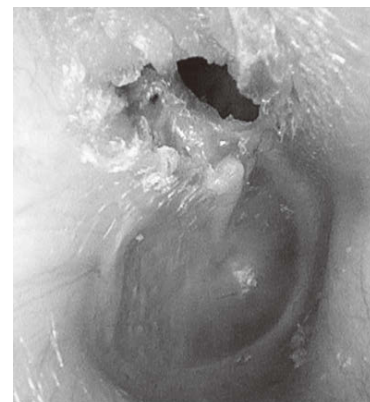


難聴にはいくつか種類があります。大きく分けると、感音難聴と伝音難聴があります。

感音難聴は、主に内耳の障害によっておこり、急性でなければ、根本的な治療法はなく、補聴器などで対処していくことになります。伝音難聴は、主に中耳の障害によっておこり、鼓室形成術、アブミ骨手術などの手術で改善の可能性があります。

普段、耳が聞こえにくい患者さんと接する機会はとても多いと思います。そのうちの大多数は、加齢による感音難聴だと思っています。その中にまれに伝音難聴の方がおられます。伝音難聴の診断のためには、正確な純音聴力検査が必要ですが、伝音難聴を疑うきっかけとしては、問診が重要です。「過去に耳の手術を受けたことのある人」、「耳漏のある人」、「過去に中耳炎と言われたことのある人」、「聴力に左右差のある人」、「普段から鼻すすりがひどい人」、「20～40歳の女性で難聴が進行してきている人」などで、耳鼻咽喉科受診をしばらくしていない人には、ぜひ近くの耳鼻咽喉科受診をお勧めしてください。

術後の耳は、中耳の音を伝える骨が消失している例があり、再手術で聞こえが改善する可能性があります。鼻すすりは、真珠腫性中耳炎の原因となります。真珠腫性中耳炎とは、鼓膜の皮膚が中耳に引っ張り込まれて起こる中耳炎です。骨を溶かして進行するために、鼓室形成術が必要です。「20～40歳の女性で難聴が進行してきている人」は、耳硬化症を想定しています。耳硬化症は、アブミ骨が動きにくくなる病気で、原因はよくわかりません。思春期以降に徐々に進行する難聴だけが症状で、女性の方が多いです。アブミ骨手術をすることで聴力改善の可能性が高い病気です。



右真珠腫性中耳炎の鼓膜所見

鼓室形成術、アブミ骨手術は10数年前まで1カ月くらいの入院で治療していた病院も多く、患者さんの中には、「耳の手術は入院が長いうえに聞こえは良くなる」とあきらめている方がおられます。最近は、入院期間も1週間程度の病院が多く、医療機器の進歩もあり、聴力改善も以前よりも期待できるようになっています。

難聴は、認知症をきたす原因の一つです。難聴の患者さんがおられたら、原因を推理し、特に伝音難聴の可能性があれば、迷わず耳鼻科受診を勧めていただけたらと思います。